

五年」(一四六四)の紀年銘が認められた。

柿経は、頭部を圭頭状にした長さ二七cm、三五cm、幅一・四cm、二cm、厚さ〇・三mm、一mmの薄板に法華経を分割して写経したものである。法華経以外の経文は認められない。今回出土した柿経は、以前に各地で出土した柿経と同様に、二〇枚を一単位とし、板の両面に経文を墨書した例が多くを占める。また、経文は一七文字、偈文は一六文字をそれぞれ両面に墨書しているが、巻頭・巻末部分では字数の関係からか片面のみに墨書している。柿経に写経した法華経は、巻一の序品第一から巻八の普賢菩薩勸発品第二八までの各品の経文が認められる。

以上のように、一次・二次調査における多くの木簡・墨書土器・製塩土器の出土は、調査で検出した掘立柱建物群の性格が、公的施設であることを強く示すものであろう。

なお、本木簡・墨書木札類の釈読にあたり、九州歴史資料館倉住靖彦、奈良国立文化財研究所加藤優の両氏に御教示いただいた。

9 参考文献

福岡市教育委員会『井相田C遺跡第二次調査現地説明会資料』(一九八六年)

同『井相田C遺跡I』(福岡市埋蔵文化財調査報告書 第二五二集一九八七年)

(瀧本正志)

木簡研究 第六号

巻頭言——記紀批判と木簡——

直木孝次郎

一九八三年出土の木簡

概要 平城宮・京跡 平城京二条大路・左京二条二坊十二坪 平城京左京八条三坊十一坪 東大寺仏餉屋下層遺構 藤原宮跡 長岡宮・京跡 平安京右京八条二坊 定山遺跡 水走遺跡 津堂遺跡 高宮遺跡 池上・曾根遺跡 万町北遺跡 山垣遺跡 福成寺遺跡 沢田宮谷遺跡 長尾沖田遺跡 小川城遺跡 道場田遺跡 宮久保遺跡 鹿島湖岸北部条里遺跡 東光寺遺跡 北大萱遺跡 篠脇遺跡 北稻付遺跡 鯉沼東Ⅱ遺跡 下野国府跡 多賀城跡 一乗谷朝倉氏遺跡 近岡遺跡 曾根遺跡 前田遺跡 美作国府跡 草戸千軒町遺跡 尾道遺跡 芳原城跡 大宰府跡 一九七七年以前出土の木簡(六)

平城宮跡(第三二次)

平安時代の日記にみえる木簡
日本古代の人口について
彙報

『木簡研究』一〜五号総目次

頒価 三五〇〇円 千四〇〇円